



確かな学力の向上をめざして【3月】

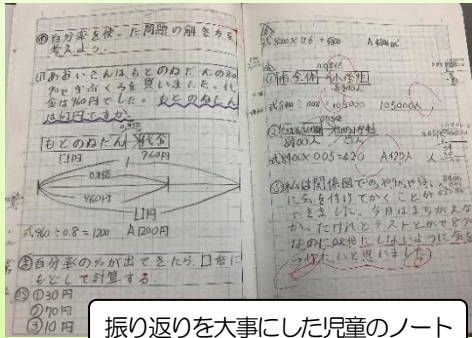
■新年度の授業づくりに繋げる ～学力向上事業より～

小学校学力向上事業「活用力アップにつながる授業改善事業（B-PLAN）」の連絡協議会を行い、事業実施校5校が今年度の取組等について振り返りました。各実施校が校内研究と一体化させた取組を進めてきたことで、日々の授業や研究推進をより充実させていくための様々なヒントや事例が得られました。その中からわずかではありますが、各校の取組の一端を紹介します。教科や校種に関係なく、活用できそうな視点多いので、新年度の授業づくりや校内研究を考える視点を見付けてください。

今年度、特に力を入れた取組

※赤字部分を紹介します

【 ①問題提示の工夫 ②アウトプットの場面設定 ③黒板全体を使った振り返り 】



振り返りを大事にした児童のノート

ねらいにつながる児童の発言の数々を板書に残し、まとめや振り返りにつながるキーワードを黒板にちりばめておくことを意識しました。児童が黒板を見て振り返った時に、本時の大事なポイントが板書から見えてくるよう、教師が意図をもって板書することが大切です。



Point 黒板を使って振り返らせ 黒板に書いてきたことをまとめる！

西郷小学校【算数】

今年度、特に力を入れた取組

※赤字部分を紹介します

【 ①対話的な学び ②対話を促すしかけ ③対話の必然性のある課題設定 】

他者に説明する際の視点を明確にしたカード（右）を作成し、児童と共有しながら、多様な説明ができるようになることを目指しました（※全国学調算数：説明3類型をもとに作成）。何について説明するのかを明確にすることは、焦点化した指導を行うとともに、対話を深めていく一つのカギとなります。



Point 伝え合うことを焦点化させる！

目指せ！ 説明名人

- A 分かっていることを説明する
【☆数や式の意味を説明してみよう！】
- B 方法を説明する
(1) 自分の解決方法を説明する
(2) 友だちの解決方法を説明する
(3) ある解決方法を使って別の解決方法を説明する
【☆今日学習したやり方を使って、練習問題を説明してみよう！】
- C 理由を説明する



説明の際に活用したカード（上学年用）

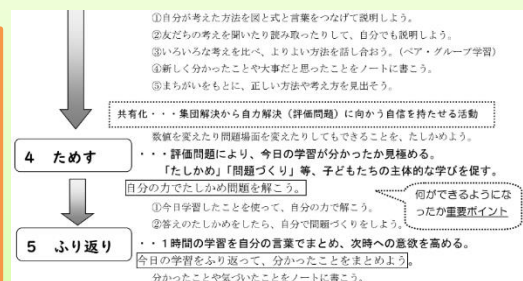
河北小学校【算数】

今年度、特に力を入れた取組

※赤字部分を紹介します

【 ①評価に注目した教材研究 ②ICTの活用 ③児童間の関わり 】

授業スタイル（右）が定着してきた今年度は、子どもの学びの姿をどのように見取るのか（評価）に着目して取り組みました。そして、「単元や1単位時間で何を柱とする？」「到達を見取るのに相応しい評価問題とは？」といった視点から授業づくりを捉えられるようになりました。



Point ゴールで何を見取るか(評価)から授業をつくる！

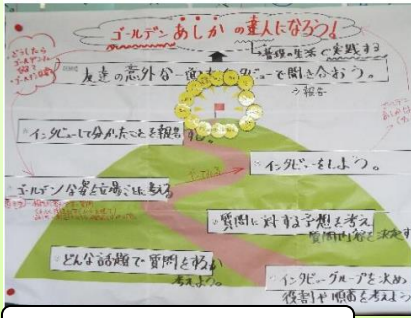
共通実践している算数学習の流れ（一部）

小鴨小学校【算数】

今年度、特に力を入れた取組

※赤字部分を紹介します

【 ①子どもの実態把握 ②目標設定と振り返り ③活用の日常化 】



目標と道筋を示した単元構想図

単元のゴールと道筋を明確にして指導することを大切にし、子どもたちが到達したいと思える魅力的な学習内容と目標の設定を意識しました。子ども自身が自己の学びの達成状況を振り返られるように、子どもたちとともに振り返りのチェック項目を考えることも大事にしました。

Point ゴールを見通した単元づくりと過程の振り返り！

今年度、特に力を入れた取組

※赤字部分を紹介します

【 ①条件指定作文 ②単元構想図「ラーニング・マウンテン」 】

全国学調分析から見た「必要な情報を自ら取り出して繋げる力」を高めるための共通実践として、字数・時間・条件の3つを制限して子どもに文章を書かせることに取り組みました。負荷に対応し始めたり、文章から必要な情報を見つけやすくなったりする等、徐々に成果が見られ始めています。

Point 子どもに適度な負荷を与える！

見よとな花火。く。果。な。と。い。か。に。の。か。で。の。え。み。こ
えりそ見火。く。果。な。と。い。か。に。の。か。で。の。え。み。こ
てき方でも火。く。果。な。と。い。か。に。の。か。で。の。え。み。こ
きれ花をす色。く。果。な。と。い。か。に。の。か。で。の。え。み。こ
しい火する。く。果。な。と。い。か。に。の。か。で。の。え。み。こ
いにる。く。果。な。と。い。か。に。の。か。で。の。え。み。こ

「表現技法を2つ以上、評価を表す言葉を1つ以上」使い、ICTで作成した児童の解説文。



外部講師による指導助言より

子どもたちが主体となり、力をつけていく授業にしていくための視点で、教科や学年、校種に関係なく重要なものですね。



各事業実施校の取組には、中部教育局指導主事の他に、外部講師として榊山敏郎先生（国語科）、輿水かおり先生（国語科）、前田一誠先生（算数科）にもお世話になりました。数多くの指導助言を頂いた中から、以下に3つだけですが紹介します。

□子どもたちが「～したい」と思える問いの設定

課題との出合わせ方、問題の見せ方（提示の仕方）の工夫、発問の工夫等を行うことで、子どもからねらいにつながる問いを引き出すことができます。そんなしかけを考えていきましょう。

□「どうしたら子どもが困らないか？」からの脱却

あえて「子どもを少し困らせてみる」という発想も大切です。学ぶ意欲を引き出し、子どもを鍛えていくことへとつながります。そのために、授業のどこで・どんな負荷を子どもにかけられるかを考えてみましょう。子どもが読む文章の量、取り組む問題の量等、量的な負荷ももっとあってよいです。

□学習のまとめを子どもたちの言葉で

子ども自身が本時の授業を振り返りながらまとめの言葉を考えて書くこと。果たしてその中に、B規準として教師が望む内容がきちんと出てくるでしょうか。子どもにまとめを書かせると、授業評価にもつながります。